

1. 日 時 平成18年7月7日(金) 1・2校時
 2. 学 級 3年5組 男子20名 女子15名 計35名 北校舎4階 第一美術室
 3. 題 材 「十五歳の私」を描こう
 4. 題材について

自画像とは、外面的な自分の姿を描くことを通して、自己の内面性を見つめ直し、そこにある悩み、喜び、苦しみ、悲しみ、決意、希望、夢などのおもいを、線や色、筆触(タッチ)や背景、構図などの造形要素にて表現するものである。多くの画家が描いてきたこの自画像という題材は、作者のその時々での自己の在り方を、自分とは何かを確かめるべく描き止めてきたものであり、自画像を描くということは、自己の内面性を追求し自己の存在とその意義を確かめることである。また、自分自身を深く振り返るといふことそのものであり、人間としての自己の存在そのものを考えることにもつながる。自画像を描くということは、事故の探求そのものであり奥が深く難しいことではあるが、自我に目覚め、進路選択が間近に迫ったこの中学三年生15歳というこの時期だからこそ、自画像を描くことで自分の内面を見つめなおし、振り返ることは価値のある題材であると考えている。

生徒は、4月当初は形として最高学年としての3年生にはなっていないが、この自画像の学習に入った段階では、まだ個々に中学3年生15歳ということに内面的に実感をもてない様子があった。4月に修学旅行を体験し、5月は最上級生として様々な立場で下級生をリードし中学最後の体育祭を成功させ、部活動では市中総体を終えて多くの生徒が事実上の引退となり、ようやく内面的にも3年生になったという実感を持ち始めてきている様子がある。学級全体としては、年度初めは、発言や行動に消極的な生徒が多く、美術の学習に対する意欲は高いとは言えなかったが、描画学習の総まとめという段階で、自分がとらえる自己のイメージを確かなものにしようとする意欲的に取り組む生徒が徐々にふえてきた。中には、描写力に優れ、得意教科としている生徒も数人いるが、その反対に表現意図が浅く構想が深まらず具体的に下絵が十分描けていない、あるいは以前から描画の学習に対して不得意であると固定した課題意識をもっているものもいる。全体としては生徒のほとんどが本制作に向けて下絵をまとめ彩色に入ろうとしている段階ではあるが、全体の色調はどうしたらよいか、表現意図にせまる視線や表情のあり方、背景の工夫はどのようにしたらよいか、具体的な彩色方法(水彩画、アクリル画、パステル画他)や表現技法(透明画法、不透明画法等)はどのようにするのか、いくつかの疑問点や課題意識を個人レベルで持ち始めている状況にある。

本来、自画像という題材は、自己の内的と向き合い黙々と描き、個人に帰結するものであるという印象がある。しかし、本時では、生徒個々が抱えている課題の解決への糸口を見つけさせるために、小グループ(生活班を軸とした5人)で話し合いの場を設定し、下絵制作での課題、特に表現意図と色調のありかたなどについて意見交換をさせ、他者とのかわりを意図的に行わせ、生活の様々な場面において周囲と支え合いながら頑張っている自己の存在を認識させるとともに、相互鑑賞の活動を取り入れ、相互のよさや表現の工夫等を教え合い認め合う活動に取り組ませたい。他者とのかわりの中で自分のおもいをより明確にさせ、他者からの意見やアドバイスの取捨選択により、さらに構想を深めることにより意欲的・主体的な制作活動をさせたい。今まさに生きているあるがままの自分についてのおもいをふくらませ、輝いている自分、輝こうとしている自分、もがき苦しみながらも困難から逃げずに頑張っている自分、あきらめず自己の課題を乗り越えようとしている自分をイメージさせ、「自分とは何か」「自分はどうしたいのか」自問自答の中で自己の再確認となる自画像を描かせたい。

5. 指導と評価の計画(別紙)

6. 本時の達成目標

美術への関心・意欲・態度	自分自身と向き合い、自画像を描くことに興味を持ち、自分をより深く知ろうとするために、自分の内面をとらえることに関心をもとうとする。
発想・構想の能力	自分が伝えたい心情や表情を考え、主題を明確にし構想(文章・アイデアスケッチ)をまとめることができる。
創造的な技能	自分の表現意図にふさわしい色調やイメージを考え、表現方法を工夫し彩色をすることができる。
鑑賞の能力	友達の作品の表現上の工夫を鑑賞して、参考にしたいことやそのよさに気づき、他者と違う表現が大切なことを発表する。

7. 本時の指導の構想

(1) 指導構想および留意点

本時は、構想作文から表現意図をまとめ、アイデアスケッチ、デッサンから下絵の完成を経て彩色の段階にあたる。下絵完成の段階で、生徒個々がかかえている課題は多様であるが、その多くは全体の色調、配色や背景の工夫等である。そこで、本時の導入段階では、生徒個々に学習プリントにまとめた表現意図と現時点での課題として全体の色調のあり方を取り上げ、今後の制作の見通しについて再確認させ、相互にかかえている課題の共通化を図る。その後、展開時の前段において、意図的に小グループごとに相互鑑賞の場面を設定し、表現意図に迫るための色調はどうあればよいかということを中心に、意見交換をさせアドバイスと感想を交換する中で個々の課題解決のための糸口をつかませたい。展開後半では、前段で相互に確認し合った課題解決の見通しをもとに各自が表現意図の追究に向けて具体的な彩色の制作に取り組み、それぞれの課題を乗り越えようとする意欲的に制作活動する姿をねらいたい。

(2) かわり合いを生かす手だてについて

相互鑑賞の場における意見交流で、生徒の課題解決のためのよりどころとなるものの一つに、デザインの学習で得た既習の知識がある。共通する課題として、表現意図にそった色調はどうあるべきかを検討する際に、デザイン領域の「色彩の学習」で色のもつ感情について振り返り、自他の自画像に効果的な色調はどうあればよいかを検討させたい。この自画像という題材において暖色、寒色、中間色(中性色) 軽重、強弱など色の感情について再確認し、表現意図とのかかわりから自己の作品にどのように生かしていくかを考えさせると共に、グループ内でお互いのよさや工夫している点自分の制作の参考となることを確認させたい。

8. 本時の展開

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	資料・教具等
導入	課題設定	15分	<p>・学習準備ができています</p> <p>・元気に挨拶ができる</p> <p>1 前時の学習内容を想起し、表現意図と現在までの課題を発表する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>表現意図に迫るための彩色はどうあればよいか。</p>	<p>1 [関心・意欲・態度]</p> <p>表現したい自画像のイメージと現時点での課題を明確にできたか。</p>	<p>1 表現意図と下絵を照らし合わせ、自分のイメージどおり制作が進んでいるか自己の課題は何かを確認させる。</p> <p>代表者指名 2人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現意図 ・ 現在の課題 ・ 制作の見通し <p>(自画像と背景、色調等)</p> <p>よりどころとしてデザイン学習での既習事項を取り上げる。</p> <p>色の感情について</p> <p>寒色、暖色、中性色、軽重、強弱など</p>	各自の作品 学習プリント
展開	課題追求	30分	<p>3 小グループ内で相互の作品を鑑賞し、意図に迫るための全体の色調や彩色方法はどうかしたらよいか意見交換をして制作の見通しをもつ。(相互鑑賞の場合)</p> <p>4 相互鑑賞の場で確認した制作の見通しを文章で学習プリントに記述する。</p> <p>(彩色の準備)</p>	<p>4 [発想・構想]</p> <p>相互鑑賞から意図に迫るための彩色の見通しをもち、学習プリントにまとめることができる。</p> <p><記述内容・発表内容></p> <p>A ; 相互鑑賞から自分の意図にふさわしい色調や背景のあり方をイメージし具体的まとめる。</p> <p>C ; 自分が表現したい表情や思いを構想作文から読み取りまとめる。</p>	<p>3 小グループで意見交流をさせる。</p> <p>司会者 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現意図と色調のかかわりについて ・ 他者のよさ、参考にしたいところを確かめる ・ 技法上の工夫 <p>意見交流を深めるために小グループは5人程度とし場合により指導者も参加する。</p> <p>4 参考になったところ、課題解決の見通しについて学習プリントにまとめさせ発表させる。 指名 2人</p>	・ 水彩絵の具
		45分	<p>5 学習プリントに記述した課題解決の見通しをもとに、表現意図の追求へ向けて制作する。(制作活動の場合)</p>	<p>5 [技能]</p> <p>自分の表現意図にふさわしい色調やイメージを考え、表現方法を工夫し彩色を進めることができる。</p> <p><作品></p> <p>A ; 立体感や陰影を的確にとらえ技法を十分に生かし意図に迫る表情追求をする。</p> <p>C ; 表現意図にそった、色調のイメージを想起させ、混色の仕方や筆づかいの方法を具体例で示し実際に描けるように個別指導をする。</p>	<p>5 表現活動に苦手意識のある生徒には、表現意図を再確認させるとともに技術的な個別指導を行う。<A></p>	
終末	まとめ	10分	<p>6 本時の学習を振り返り成果と課題をまとめる。</p> <p>7 次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元氣よく挨拶する ・ 協力して後片付けする 	<p>6 [関心・意欲・態度]</p> <p>課題解決の見通しを持って意欲的に制作に取り組むことができたか。</p>	<p>6 課題をよく追求し表現意図に迫り個性的な表現をしている代表的な生徒の作品を取り上げ評価する。</p>	学習の道しるべ

今日の課題：表現意図に迫るための彩色はどうあればよいか

下絵がほぼ完成し、いよいよ彩色に入るこの時点で、様々な課題が出てきました。背景をどうするか困っている人、表情が今一歩だと感じている人等。思いをこめた満足できる自画像に近づくには、これからの学習が重要になってきます。一人で悩んでいても解決策は、なかなか浮かばないもの。今日はお互いの作品を鑑賞しあい、お互いの作品のよいところを確かめながら積極的にアイデアやアドバイスを交換し、彩色に向けた見通しをもとう！

1. 自分の作品について（10分）

その前にもう一度（何度も）確かめよう！

○私の表現意図は？（自画像で自分のどんな思いや願いをどのように表現しようとしているのか）

Blank writing area with horizontal dashed lines for the student's response to the first question.

○表現意図に迫るためにはどんな色がいいのだろうか自分なりに考えよう！

（色の感情、固有色と主調色を考えて）

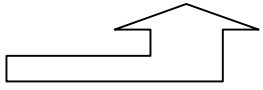
例・全体の色調は？（～～だから、全体の色調は～～にしようと思う）

・人物の色調は？（～～だから、人物の色調は～～にしようと思う）

・背景の色調は？（～～だから、背景の色調は～～にしようと思う）

Blank writing area with horizontal dashed lines for the student's response to the second question.

2. 友達の作品について《作品鑑賞会》（17分）

発表内容：今考えている彩色の予定を表現意図とのかかわりから発表する。 

司会者：班長は、発表者とアドバイザー（複数でもOK!）をそれぞれ順次指名する。

一人当たりの所要時間は約3分程度を目標に進行すること。

発表者は：表現意図は～○○で、それに迫るために、○○のところを、○○のような色調で描こうと思います。私が予定している○○のような色調のほかにもどんな色調が合うか、あるいは表現の工夫があるかアドバイスをください。

アドバイザーは：○○さんの作品は…なところがいいと思います（気に入りました）。色調については○○のような色調のほかにも、表現意図が～○○だから、○○のような色調もいいと思います。その理由は、○○という色には、○○のような感じを受けることもあるからです。

3. 作品鑑賞会を終えて（3分）

相互に作品を鑑賞して気がついたこと、参考になったこと、色調についての彩色予定など

Blank writing area with horizontal dashed lines for the student's response to the third question.

強い感じ

弱い感じ

重い感じ

軽い感じ

3年 美術		単元(題材)名 自画像「十五歳の私」		総時間 14 時間扱い			
学習指導要領の指導事項 A 表現 (1) 絵や彫刻などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。デザインや工芸などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。 ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情など心の世界をスケッチに表すこと。 イ 主題を発想し、スケッチなどを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、構成の仕方、材料の組合せなどを工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。 ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式や構成、技法などに関心をもち、自分の表現意図に合う新たな表現方法を研究するなどして創造的に表現すること。							
単元の目標	主な学習活動	評価規準	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
自分自身と向き合い、深く自己の内面を見つめて、思いや願いを自分なりに最もふさわしい方法により、構図や色調を工夫して個性的な自画像をめざす。		B = 「おおむね満足できると判断される状況」	<ul style="list-style-type: none"> ・自画像を描くことで、自己と向き合う姿勢をもち、自己の内面性を見つめようとしている。 ・対象を観察することを大切にし、表情や動きの変化をとらえて自己の内面の動きを見ようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構想作文により、今の自分の思いや気持ちを表現意図としてまとめようとしている。 ・思いや表情に迫るように、視点や構図の工夫から動きをとらえたポーズの下絵を描いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔や光の方向から、陰影や立体感をとらえて、自分なりに感じている色により描いている。 ・重色や混色を使い、全体の色調を自分らしいものにしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画家や先輩の自画像の表現の多様性に気づき、作者の思いや意図を感じ取ろうとしている。 ・作品のそれぞれの違いやよさに気づき、制作者の心情や作品のよさを味わおうとしている。 	
		A = 「十分満足できると判断できる状況」の例	<ul style="list-style-type: none"> ・自画像を描くことに興味をもって、自分と向き合う姿勢をとっても大切にし、自己の内面性を深く見つめようとしている。 ・対象をよく観察することを大切にし、表情や動きの変化を十分にとらえて自己の内面性を見つめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構想作文により、今の自分の思いや気持ちを表現意図としての確にとらえ、何を主題として描くか構想をまとめている。 ・思いや表情をしっかりとらえ、視点や構図をよく工夫しながら動きのあるポーズや自分らしさを下絵で描いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の向きや光の方向から、陰影や立体感を的確にとらえて、自分の表情の特徴などを技法を生かして描いている。 ・表現意図に十分に迫ることができるように重色や混色をととも効果的に使って描き、全体の色調を生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な自画像の作品鑑賞を通して、それらの多様な表現に気づき、作者人間性や作品への思いや意図を感じ取るようとしている。 ・様々な作品から個性の違いを感じ取り、自画像のよさを味わいながら、制作をとおして自分らしさを見つけることが大切なことを理解している。 	
		C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例	<ul style="list-style-type: none"> ・自画像に興味を示すことができるように、作品と構想作文の例を示し、自己の内面性を見つめることができるように個別に指導する。 ・対象を観察する際の視点を示し、心の動きが表情の変化につながることを理解できるように個別指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構想作文が書けるように、日常生活を視点をもって振り返らせるとともに、自分の思いや気持ちを文章でまとめることができるように個別指導する。 ・比例やバランスを意識させたスケッチを行わせ、自分らしい下絵に迫ることができるように、作例により個別指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体として構造的にとらえることができるように、観察の視点を示し個別指導する。 ・水彩絵の具の基本的な使用方法を個別に指導し、自分の感じている色で描ける用に個別指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自画像の表現の違いがわかるように、色調や筆触、筆勢などの具体的に相違点を示しながら、作品鑑賞をさせる。 ・作品の違いやよさを具体的な言葉で示し、作者の心情や意図を考えることができるように個別指導する。 	
段階	時	主な達成目標	主な学習活動	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力

